

令和7年度第1回 学校運営協議会 議事録

校 名	府立思斉支援学校
校長名	井 上 昌 二

開催日時	令和7年6月4日(水) 10:00~11:00
開催場所	府立思斉支援学校 3階 学習室
出席者（委員）	原委員（今市中学校長）、狭間委員（太子橋今市小学校長）、山中委員（豊里学園長）、三木委員（旭区障がい者基幹相談支援センター管理者）、石山委員（大宮連合振興町会大宮第16町会長）中委員（PTA役員）
出席者（学校）	井上校長、上野事務長、掛田教頭、野村教頭、酒井友行首席、水江首席 酒井康次首席兼高等部主事、杉浦中学部主事、正木小学部主事、山田進路指導主事
傍聴者	0名
協議資料	令和7年度学校経営計画 令和6年度進路状況表 令和7年度使用教科用図書（選択・採択）一覧表

議題等（次第順）
1、校長あいさつ 2、令和7年度 委員紹介 3、令和7年度 事務局紹介 4、会長・副会長の選出 5、議案 （1）令和7年度学校経営計画について （2）令和6年度進路状況について （3）令和7年度教科書について （4）その他 事務連絡
協議内容・承認事項等（意見の概要）
1、校長あいさつ 2、令和7年度 委員紹介 PTA会長 中委員、本校大場首席は欠席 3、令和7年度 事務局紹介 4、会長・副会長の選出 事務局より会長に今市中学校長原氏、副会長に太子橋小学校長狭間氏を推薦。 全員一致で承認される。 5、議案 （1）令和7年度学校経営計画について

今年度の重点目標と具体的な取り組み内容についての説明（井上校長）

めざす学校像については、変更なし。2 中期的目標については、昨年度に承認を得ている。今年度より新たな中期的目標を立てている。（R 7～R 9年度）

I C Tに関する項目を特設して5本目の柱としている。

◆児童生徒が安全安心な学校生活を送る事ができるよう体制を整える。

- ・不審者対応の研修実施。先週1回目の研修を行った。警察の方も来られ、迫力ある研修であった。
- ・防災会議については、地域と協力して実施する。
- ・食物アレルギーについては、毎日の職員朝礼で口頭確認し、全教職員で共有している。

◆児童生徒及び保護者のニーズに応じた教育活動が展開できるよう教職員の専門性を高め、資質の向上を図る。

- ・I C Tを活用した授業見学、オンデマンドで視聴できる環境を整えている。
- ・自立活動の充実、校内支援の充実、各クラスから事例を出し、支援の方法等を検討する。
- ・初任者の育成を図る。
- ・外部連携、さらに充実させたい。

◆特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域との連携強化による総合的な支援体制を充実させる。

- ・近隣の学校等に向けて公開講座2講座予定である。
- ・交流も実施、小中は居住地校交流を実施する。（希望あれば）
- ・L Sが主体となったブロック研修を実施する。
- ・ミマモルメの登録99. 7%。

◆小学部・中学部・高等部の継続性のある系統的なキャリア教育を実践する。

- ・区役所と連携、高等部が区役所へ行き、清掃と自転車整備を実施する。今年は2回実施したい。
- ・進路に向けて企業担当者に来てもらい学習会を行う。中学部で1回、高等部で2回予定している。卒業生に来校してもらい、仕事について話してもらう。1回目は実施済みで3名の来校があった。
- ・食育の充実、年10回以上児童生徒による給食委員会を実施予定である。
- ・確かな学び、学校内の交流の充実もめざし、全ての学部で実施する。例えば小学部の図工と中学部の美術等。先輩が後輩に教える姿が昨年も見受けられた。
- ・芸術鑑賞については、団体に来校いただき実施予定である。
- ・職業教育、職業コースのカリキュラムを再構築。抜本的な改革のためにP Tを立ち上げて検討中である。

◆学校教育活動全般及び学校経営・運営の全般において、I C Tの積極的・効果的な活用を推進する。

- ・児童生徒がブログを作成する取組みを計画中である。
- ・I C Tを積極的に活用する。研修の実施も予定している。
- ・情報モラルの課題については、講師を招いて研修の実施を予定している。
- ・働き方改革の面からのI C Tとしては、全教職員にタブレットを配付し、ペーパーレス会議、共有クラウドの活用等を行っている。

◎質問及び意見等◎

狭間委員)

- ・色々なことをされていると感じた。新たな3年ということで、I C Tの柱、I C Tを活用することで働き方改革になれば良い。教職員の負担になるのであれば、進め方は考えないといけない。

ほぼ日のブログはHPとは別ですか。

井上校長)

- ・HP内です。

狭間委員)

- ・交流は思斉と継続的に実施している。小学校にとっては貴重な機会になっている。ウィンウィンになれば良いと考えている。

山中委員)

- ・大規模災害、地域との連携が言われているので、連携しながら一緒にできることがあれば今年もお願いしたい。リスク管理の部分の必要性を感じている。Googleの活用等参考にさせてもらいたい。
- ・卒業後の自立に向けて、本人がどんな仕事に就きたいか本人の意向を聞いて長く働けるような仕事を探して行ってほしい。
- ・高等部の職業、具体的にどんなことをしているのか。

酒井康)

- ・2年生からは職業コースを導入し、進路に向けて織物、清掃等の学習を行っている。織物等を「学ぶ」ことが目的ではなく、織物等を「通して」働く上で必要なものを身につけていく。今年度はより生徒の自立に向けて、魅力あるものになるように、カリキュラムを検討している。

三木委員)

- ・別のところでの事案だが、個人情報の管理について、預かった預かってないの問題があった。預かり証を発行しているか、管理のマニュアルがあればなお良いかと思う。

酒井康)

- ・預かり証については、提出物チェックリストを作成してチェックしている。個人情報文書の管理に関するマニュアルも整備している。

三木委員)

- ・防犯の観点について、施設にもいつ不審者が入ってくるか分からない中で対策を考えているところではあるが、学校にあるさすまた、実際に使えるのか。子どもがいる中で、それを活用できるのか。学校で実際に活用できる防犯グッズを検討してみてもいいのではないか。私の施設では催涙スプレーを置いている。

酒井友)

- ・本校にあるさすまたは7本で、不審者侵入の放送が入ると7人がさすまたを持って駆けつけることになっている。今回の訓練では警察からの指示により3人で行ったが、犯人役に簡単に外されてしまった。反省、課題としてあげている。便利なものがあればまた教えていただきたい。

三木委員)

- ・子どもサポート室の開設はどういったものなのか。

水江)

- ・外部のアドバイザーと各学部の首席・主事等が協力して外部資源を活用して行なっている。

石山委員)

- ・自転車の整備について、自分を参加させてほしい。

酒井友)

- ・過去に一度、一緒にさせていただいた。また何かの機会に一緒にお願いします。

原委員)

- ・明日も行きたいと思う学校は大前提だと思うが、実際は不登校もいる。どのような取り組みを考えておられるか。

酒井友)

- ・本校では、外部連携チームがあり、主に家庭へのアプローチ、サポートをしている。各区の子育て支援室や相談支援事業所等の外部機関と連携を取り、相談しながら登校を促している。

原委員)

- ・学校教育自己診断の様々な面でR5からR6の伸びている部分でどんな取り組みがあったのか。

井上校長)

- ・特別なことはしなかったが、首席を中心に積み上げたことを教員に浸透させられたからだと考えている。

原委員)

- ・不審者侵入、小学部の低学年は逃げるのが難しい。児童生徒をどのように動かすのか、そのあたりのマニュアルはあるか、今後どう考えておられるか。

酒井友)

- ・現状、児童生徒は近くの教室に入って身を守ることを周知している。犯人が確保されるまでは、移動させるというよりは、教室で身を守ることを一番に考えている。

今年度の学校経営計画について、拍手で承認される。

(2) 令和6年度進路状況について

山田)

資料提示しながら説明を行う。

- ・5年度と6年度を比べると、B型、生活介護が増加している。保護者と生徒の意向が変化しており、働くまでに経験を積みたいというニーズが高まっている。保護者もスモールステップで、との声が増えてきている。

三木委員)

- ・すぐに就職とならない希望があるとのことで、自立訓練が増えたというのもあるのだろうが、就Aが0人というのは、保護者に情報がいきわたっていないのではないかと。実際は就Bと作業内容はほぼ変わらない。
- ・その他の人もいる。繋ごうとしているのはわかるが、家庭保護で繋がってない箇所もある。家庭保護、行先が決まってないところは、基幹相談支援につなげてもらえたらと思う。
- ・アルバイトの人は就職の枠ではないか。

山田)

- ・就Aの情報については、もらったパンフレット等を進路ニュースという形で毎木曜に配布している。保護者は少しずつステップアップしてほしいと思いがあり、A型ではなく、B型からのスタートを希望する人が多い。
- ・本校では、アルバイトに関しては、就職ではなく、その他に分類している。ちなみに卒業時には、

生活介護の事業所に進む予定だった。

- ・未定となっている数名については、個々に進展している。

(3) 令和7年度教科書について

- ・3種類の教科書を採択している。
- ・小学部は絵本等が多いが、最近は多様な児童が在籍していることに伴い、文科省著作教科書を採択することも増えてきている。
- ・中学部も多様な生徒が増えたことにより、検定教科書も採択している。

(4) その他

- ・意見書の提出がなかったことの報告（野村教頭）
- ・本校ICTの取り組みについて（酒井康次）
EDIX（日本最大の教育展示会）に参加し、2社のブースで今年も発表した。次は大阪でも開催予定で、そこでも発表する。
- ・ICTネットワークモデル校事業
大阪府全体で2校のモデル校のうち1校に採択された。今年度1年間の取り組み。先行的に取り組みを行い、それを大阪府の学校に共有していく。

次回の会議日程

日時	令和7年11月下旬
会場	思斉支援学校 学習室